

令和3年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各学年、教科全体の正答率が区の目標値に達しており、「漢字の読み書きの定着」を図った指導の成果が出たと考えられる。
- ・各学年、スピーチ発表と意見文発表を取り入れたことによって「言語活動の充実」が国語に関する関心を高め、それが正当率の向上につながったと考えられる。

(2) 課題

- ・授業の中に効果的にICTを活用することでさらなる学習内容の定着を図っていきたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	目標値を上回っている。		
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。 (第2学年時)	目標値を上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。
第3学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	授業の中で漢字の読み取り書き取りの時間を短時間確保する。	作文の時間を多く取ることで表現力を身に付けさせる。	詩や短歌の創作を取り入れることで主体的に学習しようという姿勢を作る。
第2学年	文法の学習を積み重ねることで文章を正確に読み書きできる力を付ける。	作文の時間を多く取ることで表現力を身に付けさせる。	川柳の創作を取り入れることで主体的に学習しようという姿勢を作る。
第3学年	文法の学習を積み重ねることで文章を正確に読み書きできる力を付ける。	作文の時間を多く取ることで表現力を身に付けさせる。	俳句の創作を取り入れることで主体的に学習しようという姿勢を作る。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年も教科全体の正答率が区の目標値に達しており、基礎・基本の定着を図った指導の成果が出ていると考えられる。
- ・副教材を活用した家庭学習の推進により、学習内容の定着に一定の効果があったと考えられる。
- ・ICTを活用して授業展開を図ったことにより、資料の読み取りの技能などの向上に繋がったと考えられる。

(2) 課題

- ・問題に主体的に取り組むことが難しい生徒や、提出物の取り組みに時間を要する生徒への補習などの支援が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	目標値を大きく上回っている。		
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第2学年時)	目標値を大きく上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。
第3学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	雨温図や分布図の読み取りの時間を毎時間設定し、資料の活用を身に付けさせる。	ワークシートを活用し、社会的事象に関する自分の考えや今後の在り方について考えさせる。	学習カードなどを活用し、授業の振り返りなどを記入し、学習の調整を図る。
第2学年	「小テスト」を行い知識の定着を図るとともに、効果的な資料を提示し、毎時間読み取る時間を設定する。	ワークシートを活用し、社会的事象に関する自分の考えや今後の在り方について考えさせる。	学習カードなどを活用し、授業の振り返りなどを記入し、学習の調整を図る。
第3学年	「小テスト」を行い知識の定着を図るとともに、効果的な資料を提示し、毎時間読み取る時間を設定する。	ワークシートを活用し、社会的事象に関する自分の考えや今後の在り方について考えさせる。	学習カードなどを活用し、授業の振り返りなどを記入し、学習の調整を図る。

令和3年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全ての学年において習熟度別少人数授業を継続しており、スタンダードコース（基礎～標準）とアドバンスコース（標準～発展）のどちらにおいても、きめ細かい指導が生徒の理解を深めていると考えられる。
- ・どの学年も教科全体の正答率が区の目標値に達しており、基礎・基本の定着を図った指導の成果が出ていると考えられる。
- ・副教材を活用した家庭学習の推進により、学習内容の定着に一定の効果があったと考えられる。

(2) 課題

- ・問題に主体的に取り組むことが難しい生徒や、提出物の取り組みに時間を要する生徒への補習などの支援が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	目標値を大きく上回っている。		
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第2学年時)	目標値を大きく上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。
第2学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。
第3学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	データの活用において課題がある。関連する単元の学習において、復習の機会を設ける。ステップ学習等の副教材を活用して基本の定着を図っていく。	考えをまとめるため、結果が正しいことを確認するために、板書を書き写させることを徹底する。さらに、解説を聞いてわかったことを説明させる機会を与えていく。	習熟度別少人数授業を継続していく。授業規律の確立と徹底を第一として、ノートとプリント教材での指導を並行して行っていく。問題の取り組み方について丁寧に指導する。
第2学年	関数と資料の活用において課題がある。関連する単元の学習において、復習の機会を設ける。ステップ学習等の副教材を活用して基本の定着を図っていく。	基本的な問題についての練習を重ねた上で、基本事項の理解度を把握するため、小テストに取り組みさせる。基礎の活用については、力を試す発問をしていく。	習熟度別少人数授業を継続していく。ワークの取り組み方について丁寧に評価し、家庭学習の習慣付けをしていく。発表内容を認め、自信を持たせるようにしていく。
第3学年	関数において課題がある。関連する単元の学習において、復習の機会を設ける。ステップ学習等の副教材を活用して定着を図っていく。	記述問題において課題がある。計算問題での途中の式や、証明における根拠を正確に述べることができるよう、説明させる機会を増やし、実際に記述させる指導を繰り返す。	習熟度別少人数授業を継続していく。授業への集中度をより一層高め、コースに応じた演習問題に取り組みさせていく。総合問題の取り組み方について丁寧に解説する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全学年とも区の目標値に達しており、基礎・基本の定着を図った指導の成果が出ていると考えられる。
- ・副教材の活用など、教科の学習内容の定着に一定の効果があったと考えられる。

(2) 課題

- ・ICTの活用などを充実させることで、より興味関心を高められる授業を行う。
- ・基礎基本の定着と共に、発展的な学習内容に着手できるよう支援を行っていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	目標値を大きく上回っている。		
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている (第1学年時)	
第3学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第2学年時)	目標値を上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストやノートの確認を行うことで、知識の定着を図る。実験や観察の技能と取得と定着ができるよう、積極的に理科室を活用していく。	実験や観察を行うとき、結果や考察を書かせ、判断や表現をできる機会を増やす。実験の予想などに、今までの結果や知識を生かせるような指導を行う。	実験や観察の機会を増やし、積極的に学習に臨む姿勢をつくる。ICTを活用し、興味をもたせる指導を行う。副教材を利用し、学習内容の定着を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストやノートの確認を行い、知識の定着を図っていく。また、実験や観察を積極的に行い、技能と取得と定着ができるよう、授業内容の検討を行っていく。	基本的な事項を確認しつつ、発展的な学習内容も行い、思考や判断を行う場面を増やす。ファイルの観察を行い、正しい表現の定着を目指す。	実験や観察の機会を増やし、積極的に学習に臨む姿勢をつくる。ICTを活用し、興味をもたせる指導を行う。副教材を利用し、学習内容の定着を行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストやノートの確認を行い、知識の定着を図る。また、実験観察を積極的に行い、技能と取得と定着ができるよう、授業内容の検討を行っていく。	基本的な事項を確認しつつ、発展的な学習内容を積極的に取り入れ、思考や判断を行う場面を増やす。ファイルの観察を行い、正しい表現の定着を目指す。	発展的な内容を取り入れることで、意欲的に考え、活動できるよう学習内容の充実を行っていく。副教材を利用することで、学習内容の定着を行う。

令和3年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全ての学年において少人数授業を継続しており、きめ細かい指導と生徒同士の学び合い・教え合いの活動が、生徒の理解を深めていると考えられる。
- ・どの学年も教科全体の正答率が区の目標値に達しており、基礎・基本の定着を図った指導の成果が出ていると考えられる。
- ・副教材を活用した家庭学習の推進により、学習内容の定着に一定の効果があったと考えられる。

(2) 課題

- ・既習表現を活用して、主体的に英語を用いて、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てること。
- ・生徒が知的好奇心をもち、自らの学力を向上させようとする意欲を高めさせる工夫が必要である。
- ・主体的に取り組むことが難しい生徒や、提出物の取り組みに時間を要する生徒への補習などの支援が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	目標値を大きく上回っている。		
第2学年	目標値を大きく上回っている。		
第3学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第2学年時)	

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	平均的である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業では「聞く」ことの割合を増やし、併せて文法的なことがらの定着を図る。	テーマに沿って自分の考えを「書く」「話す」練習をする。また多くの英文を読み内容を理解できるようにする。	学習した語彙・知識で相手に自分のことを伝えられるように、発表の機会を定期的に設ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
今後も確認テストを行い、定着を図る。今後「読む」「聞く」の活動を授業に取り入れる。	テーマに沿って英作文「書く」や発表ややり取りの中の「話す」を中心に授業に取り入れる。	粘り強い指導で定着を図る。家庭学習との併用で、個々の学習の状況を踏まえた課題を提示するなど工夫が必要である。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な語彙の確認や活用の見直しを丁寧に行う。また、ポイントを押さえた読み活動をする。	英作文では、伝えたい内容が要約できるように日本語を整理する。既習文法をうまく使って表現する。	積極的に辞書を活用して、豊かな表現活動ができるようにする。また、相互に学び合いを進めて学習を共有する。

令和3年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果・ICT を活用して様々な例を示すことで成果が見られた。

- ・第2学年及び第3学年においては既習事項を復習する際に、過去のプリントや教科書を提示することで記憶をたどり、知識を定着させることに繋がった。
- ・定期考査で、音楽用語や記号について出題した際に、正答率がとても高かった。合唱授業において、
① 録音 ② 分析 ③ 改善 というサイクルの授業をすることによって、技能改善に効果があった。

(2) 課題・歌唱においては、感染対策のためのマスク使用により、口の開き方や形の確認ができないことに工夫が必要と感じている。

- ・感染症の影響により、器楽の授業を見合わせているので、在学期間中に計画的に実施できるように授業計画をたてる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年			
第2学年			
第3学年			

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音符の長さや強弱記号など、小学校では感覚的に捉えていたものを、読み方や意味を確認して知識として定着するよう指導していく。新出の音楽記号はその都度読み方と意味を確認し、楽譜を見て表現を考えられるようになることを3年間の目標としていく。	歌唱では変声期の生徒には特に注意を払い、パート練習時には個別に指導しながら無理のない範囲での発声を促していく。	授業規律を確立させることが大切である。楽しく歌う雰囲気も大事だが、おしゃべりにつながらないようにコントロールしたい。忘れ物をしないことも徹底させたい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項の音楽記号や楽典を、その都度復習し、基礎知識の定着を図る。鑑賞の授業においては、ICT を活用し、視覚的にも情報や知識を得やすい工夫をしていく。また、音楽史についても各時代の特徴を理解できるような授業展開を行うためにプリントの工夫をする。	表現の授業では、授業の最初に全体で表現の工夫を確認し、パート練習時に自分でその課題を達成できるような授業展開を行う。	授業規律を確立させることが大切である。楽しく歌う雰囲気も大事だが、おしゃべりにつながらないようにコントロールしたい。忘れ物をしないことも徹底させたい。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音楽記号などを生かして表現を工夫し、演奏をより良いものにするために、対話的に話し合いの時間を設けながら授業を展開する。様々な時代の音楽や、日本の伝統音楽、作曲家によって生み出された作品を守るためのルール（著作権法）など、幅広い知識を学ぶための教材を扱う。	表現の授業では、2年次よりも難易度の高い題材を扱うので、授業の最初に全体で表現の工夫を確認し、パート練習時に自分でその課題を達成できるような授業展開を可能な限り少ない授業時数で行わないと曲数をこなせなくなってしまふ。	成績のために努力するのではなく、音楽の良さの本質を追求する態度を期待するという観点で評価していく。

令和3年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全ての学年において習熟度別少人数授業を継続しており、スタンダードコース（基礎～標準）とアドバンスコース（標準～発展）のどちらにおいても、きめ細かい指導が生徒の理解を深めていると考えられる。
- ・どの学年も教科全体の正答率が区の目標値に達しており、基礎・基本の定着を図った指導の成果が出ていると考えられる。
- ・副教材を活用した家庭学習の推進により、学習内容の定着に一定の効果があったと考えられる。

(2) 課題

- ・問題に主体的に取り組むことが難しい生徒や、提出物の取り組みに時間を要する生徒への補習などの支援が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年			
第2学年			
第3学年			

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	安全な学習活動を身に付けることを目指す。正しい用具、材料の基本的な使い方を習得する。	造形的な視点で対象や事象をとらえる力を高める。 豊かに発想したり、工夫して表現したりする力を高める。	指導到達目標へのアプローチとして、材料の知識『デザイン・工芸』多様な変化への関連付け、教科書、参考図版からアイデア、用途、図工から美術への表現領域『絵・彫刻』への移行を行う。
第2学年	諸外国の美術文化（主にアジアの美術や文化遺産）についてICT機器により多く提示する。	・新しい素材、表現方法を取り入れる。素材や技法の理解を深め、具体的な発想、表現活動。 ・制作意図に応じた表現方法が出来るよう、個別的な実技指導を、少人数単位で行っていく。	指導到達目標へのアプローチとして、様々な技法や表現活動、表現領域を絞って制作時間を確保し、材料の理解を深めさせていく。ICT機器を活用した表現方法の工夫やICTソフトの活用を進める。
第3学年	日本文化を始め、世界との交流や、世界の中の日本の文化を、体験や制作活動を通して身につける。	課題制作、課題制作準備段階としてのICTによる制作途中の振り返りから完成までの計画を立案させ、作品制作の計画や、制作意欲、達成感をもたせる。	資料を収集し、自分の制作に取り入れる構築的制作活動を促す。自己表現のためのイメージづくりをさせる。

令和3年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・正しい形で体操を行うことができる生徒が増え「柔軟性」への意識が高まった。
- ・グループワークでの発言の内容のレベルが上がってきた。

(2) 課題

- ・グループワークで話し合いをする場面では、積極的に発言する生徒と発言しない生徒の二極化が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	/	/
第3学年	/	/	/

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	/	/	/
第2学年	/	/	/
第3学年	/	/	/

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	ICT・教材を活用して、技能の正しい行い方を視覚化する。また、授業の導入で「本時のねらい」を明示し、本時の学習に見通しをもたせる。	PDCAサイクルを活用し、グループで話し合い計画を立て、実践し、どこに課題があったのかを評価・改善する活動を取り入れる。	達成状況が把握できるように、学習カードやノート提出を行い、改善の方法を考え実践することで、個にあった到達目標に向けて向上していく心をはぐくむ。
第2学年	ICT・教材を活用して、技能の正しい行い方を視覚化する。また、授業の導入で「本時のねらい」を明示し、本時の学習に見通しをもたせる。	PDCAサイクルを活用し、グループで話し合い計画を立て、実践し、どこに課題があったのかを評価・改善する活動を取り入れる。	達成状況が把握できるように、学習カードやノート提出を行い、改善の方法を考え実践することで、個にあった到達目標に向けて向上していく心をはぐくむ。
第3学年	ICT・教材を活用して、技能の正しい行い方を視覚化する。また、授業の導入で「本時のねらい」を明示し、本時の学習に見通しをもたせる。	PDCAサイクルを活用し、グループで話し合い計画を立て、実践し、どこに課題があったのかを評価・改善する活動を取り入れる。	達成状況が把握できるように、学習カードやノート提出を行い、改善の方法を考え実践することで、個にあった到達目標に向けて向上していく心をはぐくむ。

令和3年度 技術家庭科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- (1) 成果 ・学習内容に対する生徒の興味・関心・意欲は高い。作品を完成させることにより充実感を味わわせ、それが次の課題に取り組む意欲を高めていることにつながっていると考えられる。
- (2) 課題 ・設定した時間内に作品を完成させることができない生徒がいる。
・自ら問題解決することが苦手な生徒が多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年			
第2学年			
第3学年			

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工具や教材に触れ、体験することで知識や技能の向上をはかる。 日常生活と関連することがらについて目を向けさせる。 実習では安全に留意し、作品を完成させることに重点をおく。	作品の見本や写真、動画などを確認しながら、視覚的にとらえられるようなものづくりを実践していく。 発表や発言の機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を行う。	毎時間の終末に、学習カードを利用して、作品の評価や、全体的な自己評価を行い、次時のものづくりを実践していく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工具や教材に触れ、体験することで知識や技能の向上をはかる。 日常生活と関連することがらについて目を向けさせる。 実習では安全に留意し、作品を完成させることに重点をおく。	作品の見本や写真、動画などを確認しながら、視覚的にとらえられるようなものづくりを実践していく。 発表や発言の機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を行う。	毎時間の終末に、学習カードを利用して、作品の評価や、全体的な自己評価を行い、次時のものづくりを実践していく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工具や教材に触れ、体験することで知識や技能の向上をはかる。 日常生活と関連することがらについて目を向けさせる。 実習では安全に留意し、作品を完成させることに重点をおく。	作品の見本や写真、動画などを確認しながら、視覚的にとらえられるようなものづくりを実践していく。 発表や発言の機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を行う。	毎時間の終末に、学習カードを利用して、作品の評価や、全体的な自己評価を行い、次時のものづくりを実践していく。